

今こそ地域の支えあいでござらる！

大和町における総合事業 の取り組みについて

～生活支援体制整備事業から介護予防と地域の支えあいへ～

大和町保健福祉課 介護保険係
菅野 諭志

1



町章

昭和30年4月、1町4カ村が「大きな和の町」を目指して大和町が誕生しました。町章は、大和町の頭文字「T」を意匠化したもので、左右下方から伸びた部分は、大和町の限らない「発展」の姿を表し、5つの部分にめり分けられたものが1つにとけあう形は、大和町の地域の「和」を表したものです。(昭和50年8月1日制定)



町花 つつじ

春から夏にかけて、町内全域に見られる花木で広く町民に親しまれています。町では、公共施設など多くの施設に、つつじの植栽を進めています。(昭和50年8月1日制定)



町木 もみじ

もみじは町内に分布し、広く町民に親しまれています。秋には、船形山や七ツ森の山々が燃えるように紅葉しますので、皆さまこのすばらしい紅葉をぜひ、見ていただきたいと思います。(昭和50年8月1日制定)

町民憲章

明るく豊かな郷土大和町を築くため、町民憲章を定めています。

- 一、船形山を仰ぎ 理想と文化を高めます。
- 一、七ツ森を愛し 和の心と豊かな人間性を培います。
- 一、吉田川の流れに 清き心とすこやかな体を作ります。

(昭和61年3月25日制定)

イメージキャラクター アサヒナサスロー

朝比奈三郎の伝説 ～七ツ森のできたわけ～

昔、加美の郡に朝比奈三郎という力持ちの大男が住んでいました。あるとき、弓の稽古をするため、的にする山を作ることにしました。そこで大きなタンガラ(土を運ぶための背負いかご)をつくり、黒川のほうまでやってきたそう。そして、大谷の東の原っぱ(現在の太崎市鹿島台あたり)からタンガラいっぱい土をいれ、七回ほど土を運んで的山をつくりました。

途中、一回ずつ休んだときにタンガラから土がこぼれ、その土が固まって七つの山ができました。それが今の「七ツ森」で、この時土を掘ったところが「品井沼」、三郎が歩いた足跡が「吉田川」になったんだと。

また、その時の的山が矢嶋山(薬菜山)で、一番あとにタンガラの残りのできた山がたんがら森といわれるようになったんだとさ。



人口・世帯数

(平成27年2月28日現在)

人口(合計)
27,871人



男性
14,259人

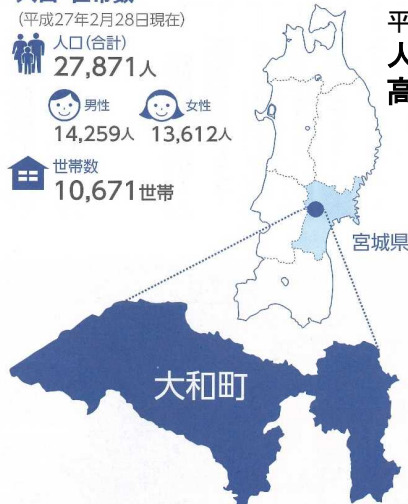


女性
13,612人



世帯数
10,671世帯

平成30年2月28日現在
人口: 28,723人
高齢化率: 21.2%



平成27年度

介護保険・高齢者福祉事業担当 2名

地域包括支援センター 直営1カ所 職員3名

平成28年度

介護保険・高齢者福祉事業担当 3名

地域包括支援センター 直営1カ所 職員4名

平成29年度

介護保険・高齢者福祉事業担当 2名

地域包括支援センター 直営1カ所 職員4名

この体制の中で総合事業を

①どのように捉えて

②どのように考えて

③どのように実施していくか

3

※当初 総合事業の開始時期の考え方

介護予防・日常生活支援サービス事業 平成29年4月

在宅医療・介護連携推進事業 平成30年4月

認知症総合支援事業 平成30年4月

生活支援体制整備事業 平成30年4月

制度をきちんと理解していない。まだ時間があるから大丈夫だろう。
最低限、現行相当のみで移行すればいいのだろう。
その他の事業はまだ猶予期間もある。



介護予防・日常生活支援サービス事業 平成29年4月

在宅医療・介護連携推進事業 平成29年4月

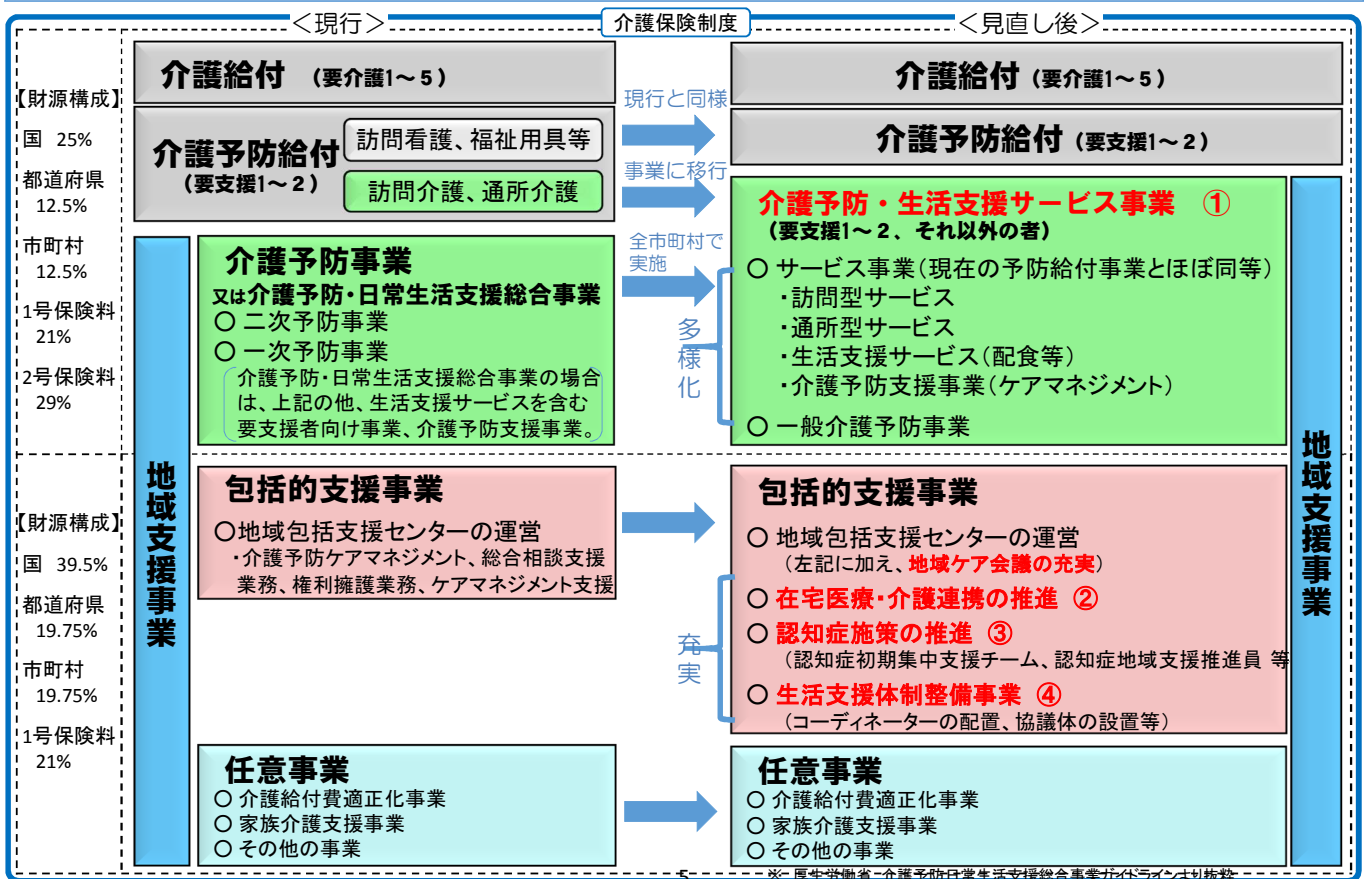
認知症総合支援事業 平成29年4月

生活支援体制整備事業 平成29年4月

当初の予定を1年前倒し、事業の開始をすべて平成29年4月とした。

4

【参考】介護予防・日常生活支援総合事業(新しい総合事業)の構成

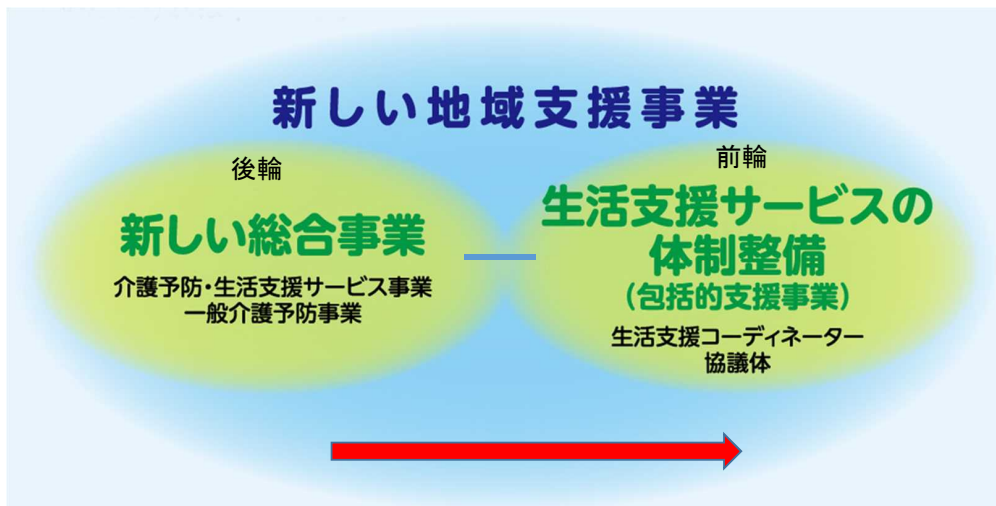
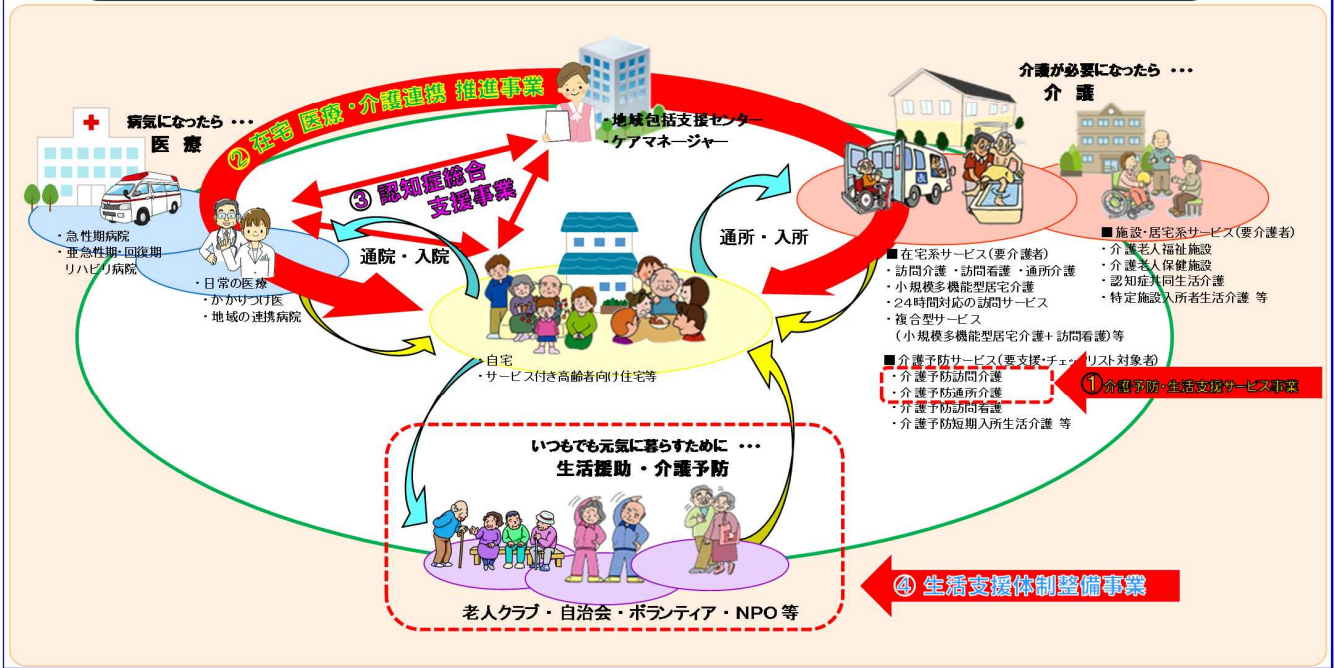


平成29年度の事業実施内容

- ①介護予防・生活支援サービス事業
→現行相当サービス＋通所C型(旧2次予防)
- ②在宅医療・介護連携推進事業
→富谷、黒川郡の協働により連携シートの作成等
- ③認知症総合支援事業
→認知症地域支援推進員の配置、チーム設置準備
- ④生活支援体制整備事業
→生活支援コーディネーターの配置・協議体設置準備

地域包括ケアシステム概要図

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、**重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制（地域包括ケアシステム）の構築を行なう。**



	これまでの介護予防	これからの介護予防
目的	要介護状態にならない	地域で暮らし続ける
必要なこと	運動・体操	自助・互助・生活支援
対象	要介護予備軍	すべての高齢者
めざすもの	身体機能の維持	身体機能の維持と社会参加
サービス・活動	1次予防・2次予防	通いの場・つどいの場・支え合い活動

【生活支援体制整備事業から総合事業を展開するⅠ】

・すべての高齢者が、自助・互助・共助により、地域で暮らし続けられるようにするためは？

サービスよりも集いの場や支えあいが必要！！

※サービスによる介入が多くなると、これまでの地域やご近所との繋がりが遮断されることがある。

本人も周りもサービスに頼る、安心することにより、**個別支援が孤立支援**に繋がっていることも・・・

【生活支援体制整備事業から総合事業を展開するⅡ】

- ①サービスづくり、サービスありきにしない
→サービスを全部揃えることが総合事業ではないため
- ②地域の資源、ニーズの把握から
→行政は地域の資源、ニーズを把握出来ていないため
- ③地域で自分らしく暮らし続けるきっかけづくり
→従来の要介護にならない介護予防から、地域で暮らし続けていく介護予防への考え方へ
- ④地域への愛着・誇りを持てるように
→地域の良さ、地域活動の再発見により、最期まで地域で暮らし続けたいと思える地域づくりへ



大和町民の支えあい活動 を発掘&発表する1年 —2017年度 町の取り組み—



11

今こそ**地域**の支えあいでござる！ 大和町生活支援体制整備事業 プロジェクトの目的

- ・地域の文化・伝統を継承
- ・住民の交流するつどい場や支え合いに着目

12

今こそ**地域**の支えあいでござる！ 大和町生活支援体制整備事業 プロジェクトメンバー

☆中心メンバー

- ・大和町保健福祉課
- ・大和町地域包括支援センター
- ・大和町社会福祉協議会

☆アドバイザー

- ・宮城県長寿社会政策課
- ・有識者(東北福祉大学教授)

13

今こそ**地域**の支えあいでござる！ 大和町生活支援体制整備事業 実務コアメンバー

- ・大和町保健福祉課
介護保険系の事務職員 1名
 - ・大和町地域包括支援センター
社会福祉士 1名
 - ・大和町社会福祉協議会
生活支援コーディネーター 1名
- それぞれが役割分担をしながら三位一体で取り組む。

14

大和町民の支えあい活動を 発掘&発表する1年

—2017年度 町の取り組み—

大和町では、2017年度に生活支援体制整備事業を開始しました。地域の文化・伝統を継承しつつ住民が交流する、つどいの場や支えあい活動を大切にするために、保健福祉課、地域包括支援センター、社会福祉協議会がプロジェクトチームを立ち上げました。アドバイザーとして宮城県長寿社会政策課と有識者（東北福祉大学教授・高橋誠一さん）に協力をいただき、研修会や出前講座を通して、すでにある地域の活動を住民とともに掘り起こしました。その経緯を、ここで紹介します。

なお、この取り組みは、宮城県の「地域の支えあいの発見と活性的ための体験型講座」のモデル市町村として、実施しました。

8/18

第1回プロジェクト会議



事業説明や高橋誠一教授による講話のほか、生活支援コーディネーターが活動を報告し、町地域包括支援センターの出前講座「後世につなぐ知恵袋」の取り組みについて共有。

8/29

行政区長対象の説明会



講話のポイント
○介護保険改正で、機能別診療費の介護予防から、本人の社会参加による介護予防へ転換
○本人が役割をもって多様なつながりを維持できる地域づくりを!

参加者の声
○支えあい活動が大切なことは理解しているが、地域での難しさもある。介護の充実が大切だと思う。
○地区で新しいことをやっていきたいと考えているが、いつも同じメンバーになってしまおう。さらに広げてやっていきたいがなかなか進んでいない。

12/14

第2回プロジェクト会議



事業の進捗、今後の行進と準備を確認。

住民発表会の開催!

2018年
1/12

2017年度

8/18

8/29

10/4

10/30

12/14

10/4

第1回大和町高齢者支えあい研修会 ～今こそ地域の支えあいでござる～



講話のポイント

○社会とつながることや、役割をもって活動することは、この上ない介護予防である!
○事業化・数値化されていない、本町の「支えあい」をどう活かすか!
○健康長寿のために、肉料理を食べることが大切である!

参加者の声

○支えあい活動が「お宝」を生み出す呼び水になる、というお話は、回からウロコでした。
○将来、自分も「支えられる」側になることを意識に入れて、今後の活動を行っていききたい。
○一人ひとりの交流に「生きがい」を感じられる支えあいが生まれるようになっていきたい。

ご近所福祉クリエイターの酒井保さんが「本町の支えあいとは何か?」について、笑いを交えて具体的に解説。その後、地区ごとに分かれてグループワークを行いました。自分たちの地域で行われているさまざまな活動について、「○○サロン」「○○愛好会」といった「名前のついた活動」と、組織に属さない「名前のない活動」を出し合いました。参加者114人。



講師紹介

ご近所福祉クリエイション主宰
ご近所福祉クリエイター
酒井保さん

知的障害者福祉施設、市町社会福祉協議会、認知症グループホーム・小規模多機能高齢者施設の勤務を経て2014年8月に「ご近所福祉クリエイション」を創設(主宰)。

10/30

第2回大和町高齢者支えあい研修会 ～今こそ地域の支えあいでござる～



講話のポイント

○目標の何もない活動も、意味づけをすると「地域の宝物」に昇格する!
○「向こう三軒両隣」こそ、私たちが欲している本町の支えあい!

参加者の声

○自分の地域のお宝探しをこれからしていきたい。
○お互いに気になさる地域にしていきたい。
○自分たちが、年を取ったときに住みやすく、仲間同士で支え合っている地域になるよう地域づくりを行っていかうことがわかった。

新たな参加者がいたこともあり、酒井保さんによる講話の復習からスタート。その後、1回目に出された住民活動の中から「これだ!」と思うものを地区ごとに1つ選び、その活動にどんな意味があるのかを考え、意味づけする作業を行いました。最後に、グループごとに活動を紹介するミニ発表会を行い、これまで知らなかった活動が多くあることを再確認しました。参加者104人。

8/18

第1回プロジェクト会議

- 方向性の意思統一
- 有識者からの講話
- 出前講座の取り組み共有
- 区長説明会の開催の決定



8/29

行政区長対象の説明会

- 行政区長に趣旨説明
- 有識者の講話
- 生活支援コーディネーターの活動紹介
- 出前講座などの取り組み紹介



17

10/4

第1回大和町高齢者支え合い研修会

～今こそ地域の支えあいでごさる！～

- 支え合いをテーマとした住民研修会を行う
- グループワークで活動を出し合う



18

10/30

第2回大和町高齢者支え合い研修会

～今こそ地域の支えあいでごさる！～

- 前回の復習
- グループごとに1つ活動を選出
- その活動に意味づけ
- ミニ発表会



19

12/14

第2回プロジェクト会議

- 事業の進捗、今後の計画と準備確認
- 住民発表会で紹介するお宝の決定
- 発表会にむけての準備



20

おらほのお宝発表会の開催！

- 住民自らが地区の活動発表
- コーディネーターが見つけたお宝紹介



今年度の取り組みが成功したポイント①

★行政・包括・社協の三位一体による取り組み

- ・共通認識を持ち、3者が繋がる
- ・生活支援コーディネーターを通して社協への支援
- ・行政が生活支援コーディネーターの後ろ盾になる
 - ※あくまでも事業の実施主体は市町村
- ・それぞれの強みを活かし、役割を明確にする
 - 行政は事業全体の計画、地域への仕掛け方の検討、事務的な黒子役
 - 包括は個別支援での地域とのつながりを活かし、地域とコーディネーターのつなぎ役
 - 社協はこれまでの地域支援の蓄積と生活支援コーディネーターによる地域資源の発掘役

今年度の取り組みが成功したポイント②

★共通認識と壁のない議論

・生活支援体制整備事業を開始するにあたり、プロジェクト会議で総合事業と生活支援体制整備事業の考え方を共有。

プロジェクト会議ではみんなが積極的に発言をし、ざっくばらんにワイワイガヤガヤと議論する場づくり。



**協議体の理想型であったため
1層の協議体(仮)へ昇格**

23

今年度の取り組みが成功したポイント③

★大和町民のチカラ！！

・私たちが知らないだけで、日ごろ意識していない支えあい活動が活発に行われており、みなさん地域への思いは熱い。

・私たち行政が住民の力を信じること。私たちの想像以上に住民は大きな力を持っている。
そして、その主体的な住民活動を評価するとさらにその活動の輝きが増す。そうするとその活動が



地域のお宝になる！！

24



大和町では、地域の支えあい活動を大切にしていけるために、これからも地域のお宝探しを続けていきます。

ご清聴ありがとうございました。